

## ■事業名 亥鼻実験教室

- 1 主催  
千葉大学医学部附属病院臨床試験部
- 2 開催日時  
平成 24 年 11 月 3 日(土)13:30~16:00
- 3 開催場所  
千葉大亥鼻イノベーションプラザ
- 4 参加者数  
16 名(市内小学校 5 年生・6 年生・中学生)
- 5 プログラム  
臨床試験を疑似体験する実験授業を開催。  
激しい運動をした後に疲労から効果的に回復する方法を調べました。  
千葉大学の学生が授業をサポート。  
臨床研究の研究者が薬をつくる仕事の話をしました。



## ■開催報告

亥鼻実験教室は、平成 21 年度から 4 回目を迎えました。毎年好評の講座で、本年度も申込み開始から間もなく定員に達しました。

まず、開講にあたり、花岡先生から病院の紹介や臨床試験部の紹介がありました。

次に、4 人ずつグループを作り、各グループ内で自己紹介を行いました。

その後、臨床試験について、ビデオを用いて説明がありました。薬がどうやって作られるのか、薬の安全性や効果を調べるための実験の重要性について、説明がありました。



臨床試験の重要性の説明後、今回の実験の説明に入ります。

今回の実験では、運動をした後の効果的なクールダウンの方法を調べるために、運動後に①座る、②ジョギング、③縄跳び、④冷やす、のどれが一番効果的なのかを調べます。子どもたちは、各グループ内で、A 時計係、B 支持係、C 記録係、D 器具係の 4 つの役割を分担して、グループごとに異なるクールダウンの方法を調べます。

実験に先立ち、子どもたちが、今回の実験の被験者である千葉大学の運動部に所属している皆さんに実験内容を詳しく説明し、被験者の同意を得るというインフォームド・コンセントを得るというプロセスを行いました。インフォームド・コンセントが得られたら、いよいよ実験の開始です。

まず、子どもたちの指示で、被験者の通常時の脈拍と血糖値を計測し、次に、バーピージャンプを 50 秒という激しい運動を行います。ここで再び脈拍と血糖値を計測し、その後、それぞれのクールダウンを 5 分間実施します。クールダウン後に、もう一度脈拍と血糖値を計測します。子どもたちは大学生スタッフのサポートを受けながら、みんなで協力して実験に取り組んでいました。



全ての計測が終わったら、脈拍と血糖値の変化をグラフ化します。脈拍と血糖値の変化をグラフで視覚化することで、どのクールダウンの方法が最も効果的だったのかを、みんなのグラフを見て確認します。



その後、今回の実験協力していただいた被験者の方に感想をお聞きし、臨床試験部が作成したビデオを見た後に、花岡先生から臨床試験の必要性についての話がありました。

最後に、花岡先生が子どもたちに今回の感想や質問を聞いて、閉講しました。